

Glocal Tenri



3

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.16 No.3 March 2015

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
風力発電
／深谷忠一..... 1
- ・ 天理教教理史断章 (90)
近愛文書^①
／安井幹夫..... 2
- ・ 『教祖伝』探究 (9)
お道の普請
／深谷忠一..... 3
- ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～
「こと」的世界観への未来像～ (11)
第1章「もの」と「こと」の意味論^②
／井上昭夫..... 4
- ・ 「おふでさき」の有機的展開 (35)
第六号：第二十九首～第五十四首
／深谷耕治..... 5
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (3)
『天理教教典』における「道」^①
／澤井治郎..... 6
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (23)
日本の新宗教の組織的展開^②
／山田政信..... 7
- ・ 地域福祉を拓く ―新たな寄付文化の
創造― (3)
セクター論と組織原理論
／渡辺一城..... 8
- ・ ノーマライゼーションへの道程(最終回)
連載をふりかえって (2)
／八木三郎..... 9
- ・ 現代宗教と女性 (2)
「宗教とジェンダー」研究の領域
／金子珠理..... 10
- ・ 図書紹介 (89)
『ぼくらのアフリカに戦争がなくな
らないのはなぜ?』
／森洋明..... 11
- ・ 開講 20周年記念・公開教学講座 (4)
第3講：ほこり
／岡田正彦、森洋明..... 12
- ・ English Summary..... 13
- ・ おやさと研究所ニュース..... 14
第278回研究報告会「アメリカ&ブラジルの
宗教事情」(深谷忠一)／「東アジア宗教
研究フォーラム」準備会・研究会を開催(金
子昭)／「教学と現代11」海外伝道の現状
と課題シリーズ(金子昭)／研究所ホーム
ページのご案内／「開講 20周年記念・公開
教学講座」／「出前教学講座」申し込み受
付／『グローカル天理』合本と年間購読の
ご案内

巻頭言

風力発電

おやさと研究所長 深谷忠一 *Chuichi Fukaya*

再生可能エネルギーとしてもはやさ
れる風力発電ですが、その発電機の大き
な事故が相次いでいると報道されていま
す。(『毎日ニュース』2014年12月21日他)

風力発電は、風の力で羽根(ブレード)
を回して電気を得ますが、その風力は、
風速の3乗に比例して強くなります(風
速が2倍になれば8倍のエネルギーが得
られる)。そこで、なるだけ大きな羽根で
風を受けることを目指して、羽根の長さ
40m などという巨大な風車が作られます。
しかし、そのような大きな羽根が高速で
回転するのを支える構造物を作るのは至
難なことで、この2年ほどの間にも、20
件以上の事故が発生しています。

高さ約50mの支柱から、発電機やブレ
ード部分の45トンが落下した京都府伊根町
の事故。破損したブレードの破片が500m
以上飛散した沖縄県での事故。佐賀県唐
津市の加部島沖では、実証実験中の浮体
式潮流・風力発電機(全長70m・最大幅
約30m)が水没したというような大事故
が相次いでいるのです。

国税庁の耐用年数省令によると、大型
風力発電機の耐用年数は17年(家庭用小
型は9年)とされていますが、実際には、
落雷や強風で羽根がちぎれて飛散したり、
タワーが根元から倒壊する事故が多発し、
メーカー保証(通常は2年)が切れた後は、
修理されることなく放置されて、単なる
オブジェになっているものも多数あるの
です。

しかるに、風力発電の最もやっかいな
点は、発電する量や時間帯を、火力やダ
ム式水力発電のようにコントロールでき
ない、ということです。NAS電池などの
大型蓄電池やスマートグリッドで対処し

ようとしても、エネルギーロスの総量が大き
過ぎて適さないのです。

長年自然環境調査活動をしている武田
恵世氏は、「日本人の多くは『風力発電は
環境に優しいエネルギー』だと刷り込まれ
ているが、実際は、風力発電はCO₂排出
を増加させ、健康被害を引き起こし、“風
が吹いたときだけ電力会社に高い値段で
買い取らせる”(消費者に高い電気代を負
担させる)という使いものにならない事業
である」と訴えています。(『風力発電の不都
合な真実』アットワークス)また、世界の風力
発電問題を調査している National Wind
Watch というサイトも、風車による様々
な健康被害についての警告をしています。

人間の居住地に、強い風が時折吹くこと
は、空気の入替えや水の循環を促し、気
温を調整するためにも必要なことです。た
まの暴風は、入江や湾の海水を攪乱して腐
らさないために役立ちます。しかし、風力
発電に都合のよい強さの風が、常に止むこ
となく吹くような場所には、人間は住むこ
とができません。“普段は風が吹かない、
吹いてもそよそよと吹く”という土地が人
間の生存には適しているのです。

つまり、親神様がせつかく人間の生存に
相応しい量の風を与えてくださっている
のに、“それでは足りない”と、やさしい
風を無理矢理に集めて大きなエネルギー
を得ようとする。それが理に当たっていない
ので、大きな事故や健康被害が起きるので
はないかと思えるのです。

自然の摂理を無視して巨大な風車を建
てるのが本当に必要なかどうか。今の時
期に改めて検証し直して、誰も「欲にき
りない風力や…」にならないように、注意
を喚起する必要があると思う次第です。